市長が行く

No.105

茂原市長　田中豊彦

技術の継承

私が市長に就任してからのことしか分からないのですが、茂原市役所や広域の職員の募集に対し、土木などの専門分野での採用が困難となってきています。募集をかけても応募が少なく、また試験をしても採用基準に満たないなど、なかなか厳しい状況が続いています。特に、建築、土木関係、電気技術の分野においてそれは顕著に見られます。時代の背景もあるのでしょうが、俗に言われている３Ｋ（きつい、汚い、危険）の分野に人が集まらない状況です。

しかし、このままの状況が続くと、例えば橋梁の維持管理、道路点検や河川の補修点検、下水道管理業務や水道事業での施設管理など、あらゆるインフラの業務管理に支障をきたすことが想定されます。これは近年アメリカやヨーロッパ、中国などでも見られるように、橋の崩落事故あるいは道路の陥没、下水道管理の不備による河川の汚染など、人々の生活に直結してくる問題です。

これらの事業の運営には、知識だけでは駄目で、それを実際に使う技術が絶対に必要です。この技術の継承はとても大切な事なのですが、その技術者は減少傾向にあり、将来が不安視されています。

その一つの要因として、茂原農業高校、茂原工業高校という専門分野の人材を育成する高校が、統合による学科の見直しにより、土木や建設の専門技術を持った若者が育たなくなってしまったことが挙げられます。

確かに「コンクリートから人へ」といったようなキャッチフレーズで、一時期公共工事を悪者扱いした時代もありました。また、ＩＴ社会の到来で厳しい労働環境の割には対価が少なく、こういった専門技術的な仕事に魅力が感じられなくなってきたという時代背景もあります。

ですが、今茂原市役所では、そういう技術者をとても必要としています。市役所のみならず、一般企業においても同様のことが言えると思われます。こういった専門分野の人材の育成に力を注いでくださる教育機関ができないものかと頭を悩ませている今日このごろです。